

11月2日(水)は、藤原先生による算数科の研究授業でした。本単元では、円や球などの図形の構成要素を理解すること、その性質を生かしてコンパスを活用した円を作図するなど図形の領域である「まるい形を調べよう」の学習をしました。本時は、5/8時間目です。円を描くだけでなく、コンパスの他の機能を活用について学習していただきました。本時の授業と事後研究の様子をお知らせします。

単元名 「まるい形を調べよう」全8時間(東京書籍) 3年2組 藤原 香 先生
本時の目標：コンパスは等しい長さをはかり取りたり移したりすることができることを理解する。
本時における見方・考え方：ものさしを使わず、長さを比べるためにコンパスを活用しようとしている。



コンパスをどのように使ったのか説明しています。



本時の板書5/8

授業参観の視点(3点)に沿ってグループで協議を行い、全体共有しました。(抜粋)

- 1 本単元で身に付けさせたい資質・能力を育成するための主体的・対話的な学習活動の設定**
 - 単元を通して数学的な活動がたくさんあり、資質・能力を育成するため子どもにしっかり考えさせる授業構成になっていた。
 - 子ども達は、困りながらも粘り強く解決しようとする姿が見られた。
 - ▼コンパスを使って「うつしとる」イメージができず、手がつけられないため、自分の考えをもつことが難しかった。
 - ▼1人で考える時間が長かったので、全体指導や全体で考える時間があるとよかった。
- 2 児童が本気になる問題や課題の工夫**
 - 他教科と関連させ、町の地図を活用した身近で興味をひく課題設定となっていた。
 - ▼最初にものさしを使って測り、すぐにどちらが近いかが分かってしまったので、子ども達に困り感がなく、コンパスを活用する必然性がなくなっていた。
 - ものさしを使わずコンパスで測る、または、ものさしでは分からないなどの困り感をもたせる
- 3 「数学的な見方・考え方」を働かせるための手立てや働きかけ**
 - ▼課題解決に向けて低学年の既習を提示し、考える手立てとするのはよかったが、提示の仕方を工夫し、提示したものをもとにどの方法が使えるのか絞っていく必要があった。
 - ▼コンパスで「うつしとる」ということを見いだすことが難しかった。
 - はかりとる直線が3段階だったので、2段階にする。
 - 地図から赤い線と青い線だけを取り出したものを使って考える。
 - コンパスを直線に合わせている子どもを取り上げ、全体で共有する。
 - 一部分を全体で行う。
 - 適用問題にある3種類の直線の長さを比べることを先に扱う。
 - ・児童の実態に応じた手立てを考え、解決方法へと導いていきたい。

藤原先生の研究授業では、子どもからの声を大事に取り上げ、自力解決の時間をしっかり取って考えさせたり、子どもの解決方法をヒントに全体に広げたりしながら学習を進めていました。子どものつぶやきや子どもの活動を見取り、働きかけや手立てをしていくことが大切であると感じました。授業構成していく中で、子ども達がどのような姿が見られそうか、どこにつまずきが見られそうかなど子どもの具体的なイメージをもちながら授業づくりを考えていきましょう。

☆校長先生の校内研修資料より☆

授業づくりで踏まえておきたいこと

- ① 「主体的・対話的で深い学び」の主語は子ども!
- ② 教科等の系統性の研究と目標=評価規準・評価基準の研究と分析整理
- ③ 単元計画構想時に、学習者思考(習得・活用・探究)の流れをより広く深く考察・イメージすること

研究授業からの学びを、日常の授業の改善に生かしていきましょう!

藤原先生による授業のリフレクション

うつしとる、という認識が子どもにはつかみにくいものだったが、事後研でたくさんの先生方からアドバイスをいただいたので、いろいろな方法があることが分かった。児童の実態に合わせた課題設定の必要性を改めて感じた。